

貴生川遺跡発掘調査現地説明会資料 No.2

平成 26 (2014) 年 8 月 3 日 (日) / 甲賀市教育委員会
公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

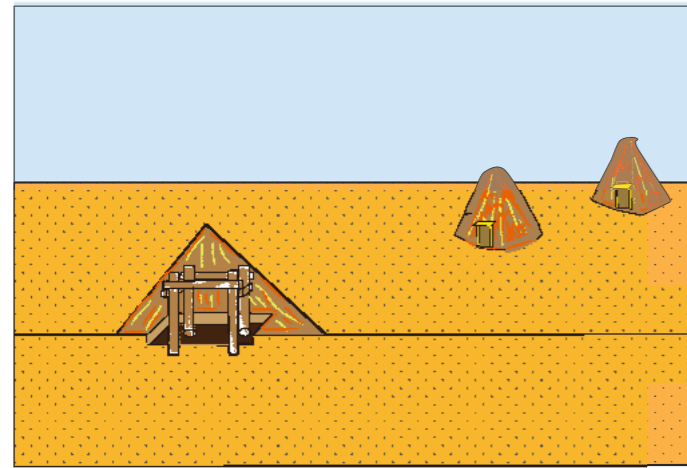


公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

調査の概要

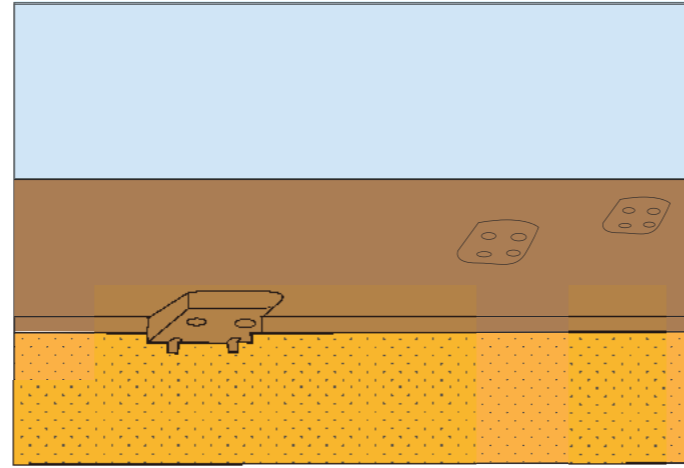
公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、甲賀市教育委員会からの依頼で土地区画整理事業に伴い、甲賀市水口町貴生川に所在する貴生川遺跡の発掘調査を平成 25 年度から実施しています。平成 25 年度調査では古墳時代中期（約 1,600 年前）の竪穴住居、平安時代末から鎌倉時代（約 800 年前）の掘立柱建物、土壇墓等を確認しました。

今年度は、その隣接地を調査しているところですが、一辺半町（約 50m）の「単郭方形」とよばれる堀と土塁で囲まれた、平面形が方形で単独で立地する戦国時代の城館跡がみつかりました。



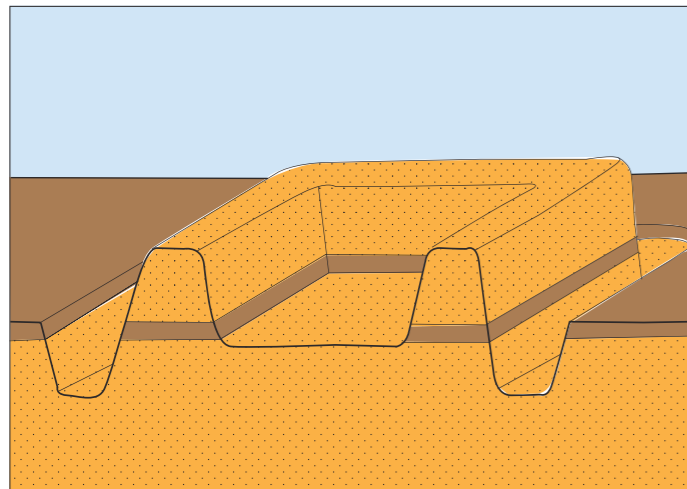
①古墳時代中期（約 1600 年前）に集落（竪穴住居）、平安時代末～鎌倉時代（約 800 年前）に集落（掘立柱建物・墓）がつけられました。

※平成 25 年度調査で見つかっています。



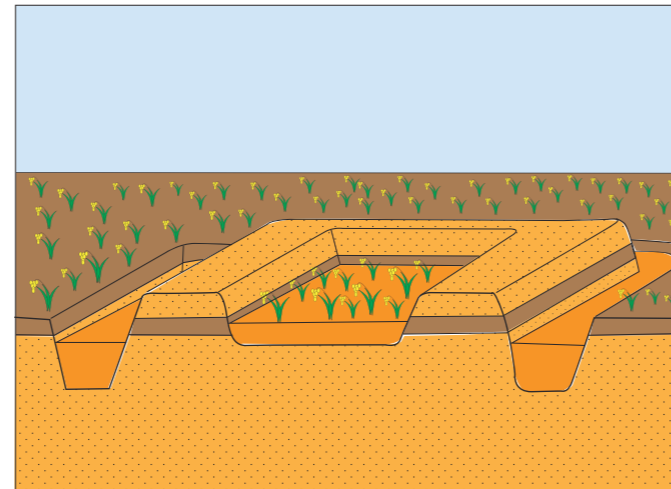
②集落が廃絶し、埋めました（鎌倉時代以降：約 800 年前～）。

※集落が廃絶したのち、古墳時代～鎌倉時代にかけての遺物を含む層で遺構が覆われたことがわかっています。



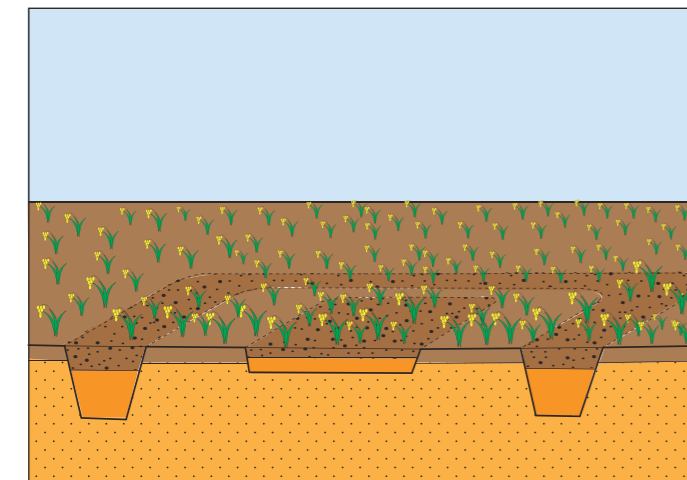
③古墳時代～鎌倉時代（約 800 年前）の集落が埋没した土の上に、城館が築かれました（約 550 年前）。

※堀と郭部分の掘削土で、土塁を築いたと推定されます。土塁の基盤には古墳時代から鎌倉時代の遺物を含む層が残っていることから、当時の生活面から土塁を築いていることがわかりました。



④城館が取り壊され（約 500 年前）、土塁の一部が取り壊されました。

※調査区の壁面の土層観察から土塁の盛土層が残っていたことがわかりました。



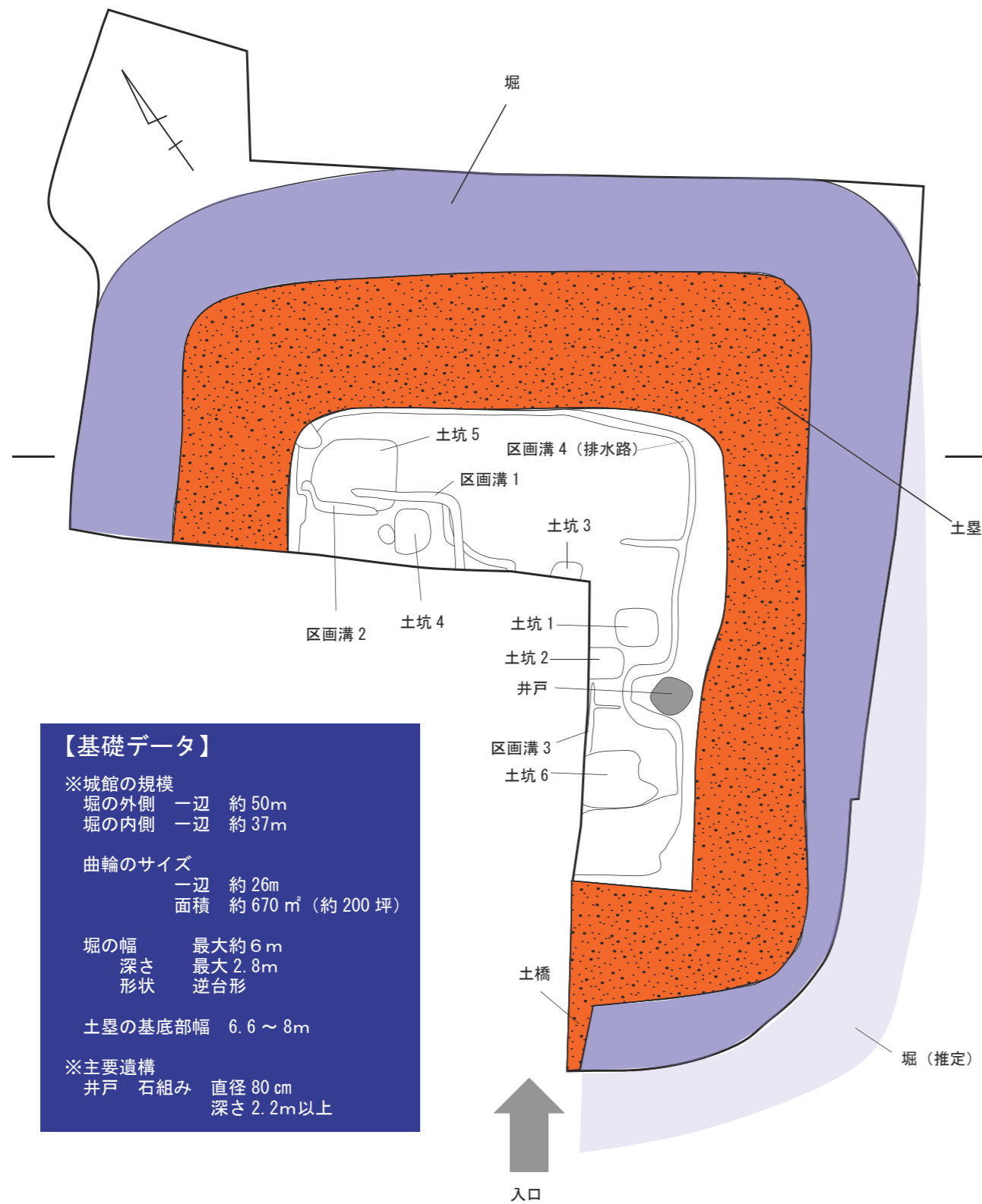
⑤水田を大きくするために、土塁を完全に壊し、郭と堀を土砂で完全に埋め戻して、一枚の大きな水田として利用できるよう区画整理が行われました。

※調査区の壁面の土層観察から、土塁の盛土が残っている状態で造成土（川原石を多く含む土砂）で堀および郭部分を埋めていることがわかりました。これは、水田として利用するとき沈まないようにするための措置であったと推定されます。

貴生川遺跡遺跡変遷模式図



【調査地全景（東より）】 遠方に杣川、飯道山を望む



【基礎データ】

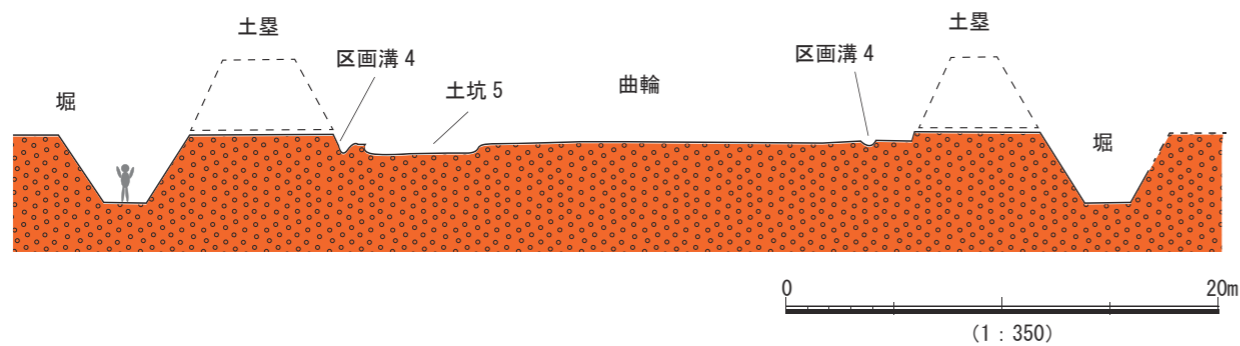
※城館の規模
 堀の外側 一辺 約 50m
 堀の内側 一辺 約 37m

曲輪のサイズ
 一辺 約 26m
 面積 約 670 m² (約 200 坪)

堀の幅 最大約 6m
 深さ 最大 2.8m
 形状 逆台形

土塁の基底部幅 6.6 ~ 8m

※主要遺構
 井戸 石組み 直径 80 cm
 深さ 2.2m以上



主要遺構概略図



【堀の土層断面】 深さは2.8mを測ります。上部の礫層は最終段階の盛土で



【堀】 逆台形の断面形を呈しています。土塁を復元するとこの堀底からおおよそ6mあります。とても登れそうにありません。



【井戸】 直径約2mの掘方を持ち、内径80cmの石組みの井戸です。中から



【堀の出土遺物】 土橋の東側の堀の中で見つかった漆器の椀です。外面には黒地に赤漆で鶴の文様が描かれています。



【土坑1の出土遺物】 瀬戸美濃焼の水注です。

調査の成果

今回の調査で、これまで明らかでなかった城館跡が良好な状態でみつき、なおかつ全体の3/5を面的に調査することができました。180をこえる城館が確認されている甲賀市域において、発掘調査が実施され、正確な存続年代、規模等が明らかになっている城館はほとんどなく、非常に貴重な発見であるといえます。さらに、遺存状態が良いことから土塁・堀の規模を視覚的に理解することができ、当時の地域内の緊張した時代の雰囲気を感じることができます。

また、出土した遺物の年代から16世紀後半代に限定できます。このことから、この城館の築造、廃絶は、織田信長による近江侵攻（1568年～）から羽柴秀吉に紀州雑賀攻めの責任を問われ甲賀衆が改易されたいわゆる「甲賀ゆれ」・「甲賀破儀」、水口岡山城の築城（1585年）を契機とした甲賀地域の動向が映し出されている可能性が高いといえます。